

第1章 旭川市の教育

I 旭川市の目指す子ども

《第8次旭川市総合計画》

目指す都市像：「世界にきらめく いきいき旭川」～笑顔と自然あふれる 北の拠点～

- 基本目標
- 1 すくすくと子どもが育ち、誰もが健やかに暮らせるまちを目指します
 - 2 たくましく未来を拓く人材を育み、生涯を通じて学べるまちを目指します
 - 3 活力と賑わいにあふれ、経済が力強く発展するまちを目指します
 - 4 自然と共生し、安全・安心な社会を支える強靱なまちを目指します
 - 5 互いに支え合い、共に築くまちを目指します

《旭川市教育大綱》

基本方針：「主体的に学び力強く未来を拓く人づくり」

- 基本目標
- 1 次代の担い手が、生き生きと学ぶ教育を推進します。
 - 2 子どもの成長を支える環境づくりを推進します。
 - 3 文化やスポーツに親しみ、学びを深める環境づくりを推進します。

《第2期旭川市学校教育基本計画》

基本理念：「ふるさと旭川から未来へはばたく子どもの育成」

- 目標
- 1 子どもたちに未来を生き抜く力を育む
 - 2 子どもたちの学びの環境を整える
 - 3 子どもたちとともに育て豊かな学びをつくる

目指す子ども像

自ら考え、仲間とともに学ぶ子ども

自分のやるべきことを見つけて行動するとともに、他者の考えに耳を傾け、協働して様々な課題を解決していくことができる力を身に付けます。

《各学校の教育課程》

自分と仲間を愛し、心豊かな子ども

自分のよさや可能性を見いだすとともに、他者の持つ価値観を尊重し、コミュニケーション力を高め、感性を磨きます。

心身ともにしなやかでたくましい子ども

意欲や気力が充実し、生涯にわたって健康で過ごせる体力を養います。

Ⅱ 生きる力を育む特色ある教育

今回の改訂においては、「生きる力」の育成が継承され、各学校の創意工夫を生かした特色ある教育活動を通して、児童生徒に確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むことを目指すことが示された。

旭川市教育委員会では、旭川市の子どもたちの状況を踏まえつつ、確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育むために、各学校の創意工夫を生かした特色ある教育活動を支援している。

1 旭川市の子どもの状況

本市の児童生徒の得意なことや優れたところ、不得意なことや苦手なことは次のとおりである。

(平成31年度全国学力・学習状況調査及び全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より)

小学生



- ◇授業で学んだことを、ほかの学習に生かしているよ！
- ◇道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思うよ！
- ◇先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれていると思うよ！
- ◇ものを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるよ！
- ◇いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うよ！
- ◇人の役に立ちたいと思っているよ！

- ◇国語や算数の勉強は大切だと思うよ！
- ◇国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うよ！
- ◇算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いてあるよ！

- ◇運動やスポーツをすることは好きだよ！
- ◇体力の向上に向けて、目標をもって取り組んでいるよ！
- ◇体育の授業は楽しいよ！

- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える児童の割合は低い。
- 学校の授業時間以外に、普段、1日当たり30分以上読書をしている児童の割合は低い。
- 土日に運動する児童の割合は低い。

中学生



- ◇課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うよ！
- ◇道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思うよ！
- ◇ものを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるよ！
- ◇学校の規則を守っているよ！
- ◇いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うよ！
- ◇人の役に立ちたいと思っているよ！

- 運動やスポーツをすることは好きだよ！
- 体力の向上に向けて、目標をもって取り組んでいるよ！
- 保健体育の授業は楽しいよ！

- 考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫している生徒の割合は低い。
- 家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合は低い。
- 保健体育の授業で学んだ内容を振り返っていると考えている生徒の割合は低い。

2 確かな学力

確かな学力については、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めることが示された。

－ 確かな学力を育成するために －

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、児童生徒の発達の段階を考慮して、児童生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童生徒の学習習慣が確立するように配慮すること。

－ 確かな学力の育成に当たって特に重要となる学習活動 －

- 1 児童生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実する。
- 2 家庭との連携を図りながら、児童生徒の学習習慣が確立するように配慮する。

小学校学習指導要領解説「総則編」 P23, 24
中学校学習指導要領解説「総則編」 P23, 24



旭川市

本市では、児童生徒に確かな学力を身に付けさせるため、各学校が共通して取り組む具体的な方策や教育委員会が推進する学力向上に係る事業等を体系的にまとめた「旭川市確かな学力育成プラン」を作成し、各学校における児童生徒の実態に応じた取組を支援している。特に、確かな学力の育成を図るための「学びを深める授業づくり」や「落ち着いた学級づくり」、「望ましい学習習慣づくり」に関わる指導のポイントを示し、これらの内容について、全小・中学校が、児童生徒の実態を踏まえて取り組むことにより、児童生徒の確かな学力を育成する。

また、児童生徒が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して自らの可能性を発揮し、力強く未来を生き抜くことができるよう、他者と協働して課題を解決するための資質・能力を育むとともに、英語教育や情報教育などの新しい時代に求められる教育を推進する。

資料編1 旭川市確かな学力育成プラン



英語教育の推進

- ・ 英語教育及び国際理解教育を推進するため、小・中学校に外国人英語指導助手（以下「ALT」という。）や外国語活動サポーターを派遣するとともに、児童生徒が学んだ英語を実際のコミュニケーション場面において活用する、インターネット電話を用いた海外の児童生徒との交流や、ALTを講師として長期休業中に児童生徒向けのイングリッシュ・チャレンジ教室を開催する。また、小学校教員の指導力向上を図るため、小学校教員英語研修会や小学校教員英語ワークショップを開催する。

情報教育の推進

- ・ 児童生徒の情報活用能力を育成するため、授業の中でICT機器の効果的な活用や教育コンテンツ等の利用を促すとともに、小学校プログラミング教育の実施に当たり、教員向け研修会を開催するほか、市内に設置されているプログラミングに関する専門性の高い教育機関等との連携による取組を実施する。

資料編2 旭川市立小・中学校における情報活用能力の体系表
資料編3 旭川市立小学校プログラミング教育の手引



(1) 学びを深める授業づくり

本市では、学習内容の確実な定着に向け、育てたい資質・能力を明確にした指導計画の作成や各教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせる場面の設定と手立ての工夫、学習内容の確実な定着を図るまとめ、振り返りの指導の充実を進める。

授業力向上プロジェクトチーム

- ・ 本市の教員と指導主事で構成する各教科等のプロジェクトチームを設置し、全国学力・学習状況調査結果報告書「指導の改善策」などの教員向け指導資料を作成する。

全国学力・学習状況調査結果報告書「指導の改善策」

- ・ 本調査結果について、一つ一つの設問や質問項目を詳細に分析し、その成果や課題を明らかにして、各学校の指導や取組の充実に資する改善策を作成する。

教育研修事業

- ・ 初任段階教員研修や中堅教諭等資質向上研修などの法定研修において、授業づくりに関わる講座を実施するとともに、本市独自の教育研修として、授業力向上研修会や道徳科研修会、小学校教員英語研修会などを開催する。

旭川市教育実践推進事業

- ・ 現代的な教育課題等について教育実践を推進する実践推進校を指定し、その実践成果を広く市内に普及することにより、旭川市全体の教育の質の向上を図る。

ALT（外国人英語指導助手）の派遣・活用

- ・ ネイティブスピーカーとの言語活動を通して、児童生徒にコミュニケーション能力を育成するため、全小・中学校にALTを派遣する。

(2) 落ち着いた学級づくり

本市では、学校全体で取り組む学びの環境づくりに向け、小・中学校の接続に配慮した学習規律の設定や対話的な学びを支える人間関係づくり、学習に集中できる教室環境の整備を推進する。

少人数学級編制の実施

- ・ 児童の個に応じたきめ細かな指導の充実を図るため、小学校において、教員確保等の状況に応じ市費負担教員を配置し、少人数学級編制を実施する。

特別支援教育推進体制の充実

- ・ 特別な教育的ニーズのある児童生徒に対し、一人一人のニーズを把握し、適切な教育的支援を行うため、特別支援教育補助指導員を配置する。また、適切な支援や児童生徒の就学等に係る相談支援の円滑化を図るため、旭川市子ども総合相談センター等の関係機関との連携を図る。

中学校区で共通した「学習の決まり」

- ・ 小・中学校間の円滑な接続を図るため、中学校区の小・中学校が連携し、9年間を見通した学習の決まりなどを作成して、教職員や保護者が共通理解を図り、児童生徒の学習規律や生活規律等の徹底を図る。

資料編4 中学校区で共通した「学習の決まり」(例)



(3) 望ましい習慣づくり

本市では、発達段階を踏まえた、自ら学ぶ力の育成に向け、共通理解に基づく効果的な宿題の取組や見通しをもって計画的に学習に取り組ませる指導、家庭との連携によるオンラインサービスを活用した家庭学習の取組を推進する。

「旭川市学力向上学習プリント集」の発行

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、授業力向上プロジェクトチームにより、家庭学習等で活用できる国語や算数・数学，理科，英語の学習プリントを作成する。

指導体制の充実

- ・ 学生ボランティア等の人材を小・中学校に派遣し、放課後や長期休業中の補充的な学習などを支援する。

オンラインサービスを利用した学習支援システムの活用

- ・ 児童生徒一人一人の学習の状況に応じ、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るため、学校や家庭での学習に活用できるオンラインサービスを利用した学習支援システム「eライブラリアドバンス」の活用を促進する。

資料編5 eライブラリアドバンスー旭川市立小・中学校活用事例集ー



3 豊かな心

豊かな心については、道德教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めることが示された。

(1) 道德教育の充実

学校における道德教育は、道德科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道德科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うことが示された。

— 豊かな情操と道德心を培うための道德教育 —

- 1 教育活動の特質を生かし、児童生徒の発達段階や、個々人の特性等を適切に考慮する。
- 2 特別の教科として位置付けられた道德科は、道德性を養うことを目指すものとして、その中核的な役割を果たす。
- 3 道德教育は、道德科を要として教育活動全体を通じて行う。

— 道德教育の目標 —

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。

— 道德教育を進めるに当たっての留意事項 —

道德教育を進めるに当たっては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意すること。

旭川市

小学校学習指導要領解説「総則編」 P 24～31
中学校学習指導要領解説「総則編」 P 24～31



本市では、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めるなど人権尊重の意識や、他人を思いやる心や生命を尊重する心、自己肯定感や自己有用感、感性や想像力など、豊かな情操を培い、豊かな心を育む教育の充実に努める。また、平成31年2月に策定した「旭川市いじめ防止基本方針」に基づき取組を実施するなど、いじめや不登校の未然防止と早期発見・早期対応に取り組む。

道德科研修会の開催

- ・ 道德科の授業づくりの基本についての理解を深め、学習指導案の作成や授業研究・協議等を通して道德科の実践的指導力を図ることを目的として開催する。

指導資料「『特別の教科 道徳』の実施に向けて」の活用

- ・ 児童生徒の実態等に基づいた指導や「考える道徳」、「議論する道徳」の実現に向けて作成した指導資料を活用し、道徳科の指導が一層工夫されるよう支援する。

「旭川市いじめ防止基本方針」に基づく取組の推進

- ・ 「旭川市いじめ防止基本方針」に基づき、児童生徒が主体となった各学校の取組を支援するとともに、学校や関係機関との連携を図り、いじめの防止等の取組を充実する。

生活・学習A c t サミットの開催

- ・ 全中学校の生徒会役員等が、弁護士や臨床心理士などの専門家を交え、旭川の子どもの現状や課題などを踏まえながら、よりよい生活の在り方について生徒自ら考えを深める。平成28年度は「メディアとの関わり方」、平成29年度からは「いじめ」をテーマとして協議した。

生徒指導研究協議会の開催

- ・ 児童生徒の豊かな成長や発達を促すため、生徒指導上の諸問題に関する研究協議を通して、学校、家庭及び地域社会が連携・協力して生徒指導の充実を図る。毎年2日間開催し、教職員や保護者、関係機関の担当者等が参加して、生徒指導上の今日的な課題についての講演や情報交流、具体的な対応について協議することとし、学校及び地域間の交流や教職員の指導力向上を図る。

スクールカウンセラーの配置

- ・ いじめ問題の早期改善等を図るため、臨床心理士や専門的知識や経験を有するスクールカウンセラーを小・中学校へ派遣・配置し、相談に対応する。

命を大切にする教育の充実

- ・ 児童生徒に生命を尊重する心を育むため、地域の施設や関係機関と連携し、命を大切にする教育の充実に努める。

道徳科に関する研修の充実

- ・ 学校の教育活動全体を通じて、家庭や地域との連携を図りながら、社会生活上の決まりを身に付けさせるとともに、生命を大切にする心や人権を尊重する心などを育てることができるよう、各学校における道徳科に関する校内研修を充実する。

（２）体験活動の充実

児童生徒が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫することが示された。

旭川市

本市では、児童生徒が主体的に挑戦することや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、体験活動の充実に努める。

和楽器による伝統文化体験事業の実施【中学校】

- ・ 外部講師を活用し、中学生が和楽器の演奏を体験するなど、伝統音楽に触れる機会を通して日本の伝統文化に対する関心を高めるとともに、他国の文化を尊重する態度を養うことを目的として実施する。また、音楽担当教員を対象とした和楽器の実技講習会を開催する。

総合的な学習の時間研修会の開催

- ・ 地域の教育環境を生かした体験活動を位置付けるなど、探究的な学習の課程を重視した授業について、実践的指導力の向上を図る。

体験活動の充実

- ・ 旭川市の豊かな自然を生かした体験活動や、田植えなどの農業体験活動、職業や自己の将来に関わる職場体験活動、通学路のゴミ拾い活動等のボランティア活動等の充実を促進する。

(3) 多様な表現や鑑賞の活動等の充実

学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実することが示された。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実することが示された。

旭川市

本市では、芸術文化団体等と連携を図った取組や、美術館や博物館、文化会館等、地域の社会教育施設を活用した取組を実施するなどして、児童生徒の情操を育み、心を豊かにする読書活動や文化芸術活動の推進に努める。

学校司書の配置による読書活動の充実

- ・ 学校司書を全校に配置し、児童生徒の読書環境を整備するとともに、授業に役立つ資料を備え学習支援を行うなど、読書活動を通して、豊かな感性や表現力等を育てる指導の充実を図る。

文化芸術に親しむ機会の提供

- ・ 児童生徒が文化芸術の素晴らしさに触れることができるよう、小学校6年生を対象としたミュージカル鑑賞教室や中学生を対象とした札幌交響楽団コンサートの鑑賞を実施する。

文化活動に対する支援

- ・ 全道又は全国的な参加規模をもって開催されるコンクール等に出場する児童生徒の派遣費用（文化振興助成）を一部補助する。また、優れた実績を挙げた個人や団体に対し、旭川市教育奨励賞を表彰する。

部活動の充実（中学校）

- ・ 生徒が文化、科学等に親しんだり、望ましい人間関係を構築したり、自己肯定感を高めたりするなど、生徒や指導する教員の負担に配慮しつつ、地域人材の活用や社会教育団体と連携した指導などによる部活動の充実を促進する。

地域の公共施設の利活用

- ・ 教育活動のねらい等に応じ、美術館や博物館、科学館等の各種展示の鑑賞や、文化会館やクリスタルホール等の公共施設を利活用した文化芸術作品の発表や鑑賞を行う。

4 健やかな体

健やかな体については、学校における体育・健康に関する指導を、児童生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めることが示された。

－ 健やかな体の育成に当たって特に重要となる学習活動 －

- 1 体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行う。
- 2 家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮する。

（１）体育に関する指導

積極的に運動する児童生徒とそうでない児童生徒の二極化傾向が指摘されていることなどから、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくとともに、現在及び将来の体力の向上を図る実践力の育成を目指し、児童生徒が自ら進んで運動に親しむ資質・能力を身に付け、心身を鍛えることができるようにすることが示された。

旭川市

本市では、児童生徒の体力の向上や教員の指導力の向上に向け、体育の授業改善に係る研修会を開催するとともに、年間を通した運動機会の確保や運動習慣の定着を図る取組などを推進する。

小学校教員体育研修会の開催

- ・ 市内に配置されている体育専科教員を講師として、運動の楽しさや喜びを味わわせ、体力の向上を図る体育の授業づくりや、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、学校全体で取り組む体力づくり等について、教員の実践的指導力の向上を図る。

「体力手帳」の活用促進

- ・ 児童生徒が運動の楽しさやよさを実感し、進んで運動に親しむよう、プロジェクトチームにより作成した「体力手帳」の活用を促進する。

冬季間の運動機会の確保（スキー学習の実施）

- ・ 積雪寒冷地である旭川の特色を生かし、全小・中学校におけるスキー学習の実施を通じて、年間を通して運動に親しむ機会を確保する。

運動部活動の充実

- ・ 「旭川市立中学校部活動ガイドライン」に基づき、部活動指導員を配置するとともに、各関係団体等と本市の部活動の在り方について検討を進めるなど、運動部活動の充実を図る。

旭川市体力運動能力優良生徒審査会の実施

- ・ 各中学校2年生の代表生徒を対象に優良生徒を審査し、発育期である中学生に自己の体力を認識させるとともに、正しいスポーツ活動の実践を習慣付ける。

選手派遣費や大会運営費の補助

- ・ 全道又は全国的な参加規模をもって開催される大会等の選手派遣費や本市で開催される大会の運営費を補助する。

1校1実践の推進

- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果等、児童生徒の実態を踏まえ、全体計画を作成するとともに、始業前や休み時間における体力づくりや体育的行事の工夫、体育・保健体育授業における準備体操等を工夫する。

(2) 健康に関する指導

児童生徒が身近な生活における健康に関する知識を身に付けることや、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することのできる資質・能力を育成することが示された。

旭川市

本市では、健康課題に係る教職員向けの研修会を開催するとともに、適切な健康管理や保健指導の実施、食に関する指導の充実などに努める。

学校保健研修会の開催

- ・ 教職員の学校保健に関する知識や技術の向上を図るため、研修会を開催する。

各種環境衛生検査の実施

- ・ 学校環境衛生基準に基づき、換気や保温、採光及び照明、水質などの各種環境衛生検査を実施する。

フッ化物洗口の実施

- ・ 児童のむし歯の予防のため、関係者と連携し、小学校におけるフッ化物洗口事業を実施する。

食に関する指導の充実

- ・ 学校給食を通じ、望ましい栄養バランスや食習慣の重要性、世界や国内各地の食文化などについて、栄養教諭等の専門性を生かしながら食に関する指導の充実を図る。

地産地消の取組の推進

- ・ 「郷土の旬を味わう日」の実施や旭川産米粉を使用したパンやメニューの提供など、食や農業に関心をもたせるため、地産地消を推進する。

アレルギー対応マニュアルの徹底

- ・ アレルギー疾患を有する子どもに対し、教職員が正しい知識をもち、緊急時に適切に対応できるよう「アレルギー対応マニュアル」に沿った食物アレルギー対応の徹底を図る。

学校における食育の充実

- ・ 全小・中学校において、食に関する全体計画を作り、栄養教諭の専門性を生かしながら、望ましい栄養バランスや食習慣の重要性、地域の農産物についてなどの指導を行う。

(3) 安全に関する指導

様々な自然災害の発生や、情報化やグローバル化等の社会の変化に伴い児童生徒を取り巻く安全に関する環境も変化していることから、身の回りの生活の安全、交通安全、防災に関する指導や、

情報技術の進展に伴う新たな事件・事故防止，国民保護等の非常時の対応等の新たな安全上の課題に関する指導を一層重視し，安全に関する情報を正しく判断し，安全のための行動に結び付けるようにすることが示された。

旭川市

本市では，警察や関係部局と連携した安全教育の充実を図り，児童生徒の危機対応能力を育成するとともに，学校，家庭，地域社会と連携しながら防犯・防災も含めた安全確保に努める。

交通安全教室の実施

- ・ 児童生徒が交通事故から身を守る能力を身に付けることができるよう，関係部局や関係機関と連携した交通安全教室の実施を促進する。

防犯教室・防犯訓練の実施

- ・ 児童生徒の防犯への意識の向上を図るため，警察等の関係機関と連携した防犯教室や防犯訓練の実施を促進する。

避難（防災）訓練の実施

- ・ 学校施設や周辺の状況などを考慮し，火災や地震，風水害などが発生したことを想定した防災訓練の実施を促進する。

通学路の安全確保の実施

- ・ 警察や道路管理者，地域等と連携し，旭川市通学路交通安全プログラムに基づき，通学路の合同点検や対応策の検討・改善を行う。

子ども１１０番の家及び子ども１１０番の車の実施

- ・ 町内会や市民委員会防犯部等の関係団体と連携し，緊急避難場所である「子ども１１０番の家」の「旗」を設置するとともに，市の公用車を「子ども１１０番の車」に指定し運行する。

安全マップの更新・見直し

- ・ 地域の状況の変化に応じて，学級活動等における児童生徒の安全に係る指導で使用する「安全マップ」について，適宜，更新・見直しを図る。

（４）心身の健康の保持増進に関する指導

情報化社会の進展により，様々な健康情報や性・薬物等に関する情報の入手が容易になっていることなどから，児童生徒が適切に行動できるようにする指導が一層重視することが示された。

旭川市

健康診断・保健指導の実施

- ・ 児童生徒の健康の保持増進を図るため，学校保健安全法に基づき健康診断や保健指導を実施する。

薬物乱用防止教室の開催

- ・ 全小・中学校で実施している薬物乱用防止教室について，警察官や学校薬剤師などの外部講師を活用した内容の充実について指導・助言する。

5 小中連携・一貫教育の推進

小中連携・一貫教育については、全国各地の実情に応じて、各市町村が様々な理由で独自に取組が進められており、平成27年6月、学校教育法が改正され、翌年4月から、市町村の判断により義務教育学校等を設置できるようになった。

このような中、教育課程の編成に当たって、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図ることが示された。

－ 小学校から中学校への円滑な接続 －

- 1 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領を踏まえ、中学校教育及びその後の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。
- 2 小学校学習指導要領を踏まえ、小学校教育までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、義務教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を、生徒が確実に身に付けることができるよう工夫すること。

小学校学習指導要領解説「総則編」 P74, 75
中学校学習指導要領解説「総則編」 P72～74



旭川市

本市では、子ども一人一人の学力の向上や人間形成を図ることを目的として、平成26年度から小中連携・一貫教育に取り組み始めた。

平成27年度に実施した取組シートでは、ほぼ全校において、小学校から中学校への円滑な接続を意識した取組が実施されていたことから、平成28年度に「中学校の生活についてのアンケート調査」（対象：小学校5・6年生・中学校1年生）を実施した。

本調査において、本市の児童生徒は質問10項目中の8項目で肯定的な回答が6割を超えており、中学校に対する期待感などプラスのイメージを持っている傾向にある。特に、部活動があること、新たな友達との関係をつくること、いじめなどのない楽しい学校生活を続けることが、肯定的な回答が高い状況であった。

一方で、定期テストが行われることや勉強の量が増えたり、レベルが上がったりすることなど、学習に関わる項目が不安なこととして挙がっており、学習に関する不安は中学校入学後も引き続いていく傾向が見られた。

そのため、「平成28年度9年間をつなげてみよう活動シート」を活用して取組を着実に進めるとともに、平成29年6月、本市がこれまで進めてきた小中連携・一貫教育を、更に段階的かつ着実に進めるための指針として「旭川市小中連携・一貫教育推進プラン」を作成した。

全中学校区では、「旭川市小中連携・一貫教育推進プラン」を基に、中学校区の小・中学校が連携し、「小中連携・一貫教育推進Note」を基に現状把握や課題の特定をするとともに、「小中連携・一貫教育推進プラン実践シート」を活用して目標を共有するなど、PDCAマネジメントサイクルを確立し、各小・中学校が、課題の解決を図りながら、小中連携・一貫教育を段階的に進める。

また、プランに基づく取組が円滑に推進できるよう、連携コーディネーターによる学校訪問を実施し指導・助言を行うほか、これまでの取組を総括し好事例を普及するなどの研修会を開催する。

さらに、この中学校区の連携をベースとして、学校と地域が力を合わせて子どもたちを育むコミュニティ・スクールの導入・充実に取り組み、学びを支える学校・家庭・地域の連携・協働を推進する。

<アンケート調査の質問項目>

- ① 授業で、教科によって先生が変わること
- ② 自主的に家庭学習を行うこと
- ③ 英語などの新しい教科が増えること
- ④ 定期テストが行われること
- ⑤ 勉強の量が増えたり、レベルが上がったりすること
- ⑥ 服装などの「生活のきまり」が変わること
- ⑦ 部活動があること
- ⑧ 新たな友達との関係をつくること
- ⑨ 上級生（先輩）との関係をつくること
- ⑩ いじめなどのない楽しい学校生活を続けること

「旭川市小中連携・一貫教育推進プラン」
旭川市ホームページに掲載



6 ふるさと旭川の特徴を生かした教育の推進

郷土や地域に関する教育については、社会科や技術・家庭科などの各教科等において、地域の伝統や文化に関する学習や、家庭や地域との関わりについての学習などが示されるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、地域の公共施設の利活用が重要であることが示された。

— 学校図書館、地域の公共施設の利活用 —

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たっては、学校図書館の活用に加えて、資料調査や本物の芸術に触れる鑑賞の活動等を充実させるため、地域の図書館、博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設を積極的に活用することも重要である。

こうした公共の施設の名称や施設が有する機能は地域によって多様であるため、ここに規定する施設に限らず児童の学習の充実に資する観点から幅広く活用を図ることが期待される。

旭川市

小学校学習指導要領解説「総則編」 P92
中学校学習指導要領解説「総則編」 P90



本市では、旭川市立小・中学校教育課程編成の指針各教科等編の社会科編や生活科編、家庭科、技術・家庭科編等において、郷土の伝統や文化に関する学習や、家庭や地域との関わりなどの学習を位置付けるとともに、児童生徒が地域と触れ合う体験活動等の充実や、旭川の自然や文化など教育資源の有効活用を通して、ふるさと旭川のよさを生かした教育や自分の夢の実現を図るキャリア教育の推進に取り組む。

小学校社会科副読本の配付

- 児童生徒が本市について学び、理解を深め、郷土への愛着と誇りを育むことができるよう、小学校社会科副読本「あさひかわ」を作成し、小学校3年生に配付する。

あさひかわ子どもの学び人材リスト・施設リスト等の活用促進

- 各学校の特色ある教育活動の充実に資するため、学校が保有している情報を整理したり、市民や関係部局等からの情報を収集したりするなどして、人材及び施設リストを作成し、教育課程の編成や実施に必要な人材及び施設の活用を促進する。

資料編6 「あさひかわ子どもの学び人材リスト」
資料編7 「あさひかわ子どもの学び施設リスト」



各教科等で活用できる市有文化施設一覧

- 利用するための情報や活用方法等を分かりやすく整理した市有文化施設一覧を作成し、学校の利用を促進する。

資料編8 各教科等で活用できる市有文化施設一覧



旭山動物園の利用促進

- NPO法人によるバスレンタル事業の提供を通じて、各学校における教科等の学習での旭山動物園の利用を促進する。

地域の教育資源を活用した職場体験や職業講話の実施

- 児童生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けることができるよう、ふるさと旭川の教育資源を活用した職場体験や職業講話等の学習を促進する。

あさひかわ版キャリアパスポートの活用促進

- 児童生徒が自己の変容や成長を自己評価するため、あさひかわ版キャリアパスポートを作成し各学校に配付するとともに、活用を促進する。

7 学校教育におけるSDGsの取組の推進

平成27年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」SDGs（Sustainable Development Goals）は、持続可能な社会を実現するため、全ての国に適用される普遍的な目標として17のゴール（目標）と169のターゲットが掲げられており、学校教育においては、「持続可能な開発のための教育」ESD（Education for Sustainable Development）を進め、持続可能な社会の創り手を育成することが示された。

— 学習指導要領（前文） —

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

小学校学習指導要領 P 15
中学校学習指導要領 P 17



旭川市

本市では、子どもの貧困対策や環境・エネルギー政策、持続可能な都市づくりなど、第8次旭川市総合計画基本計画のもとでSDGsの要素を推進しており、SDGsの方向性と連動した総合計画を推進する。

【SDGsの17の目標】



<出典>外務省「持続可能な開発目標（SDGs）について」

また、教育現場においても、SDGsと関連した教育活動の展開が求められ、持続可能な社会の実現に向けて行動する力を育むために、各学校の活動をESDの視点で捉え直すことにより、教育課程と授業の改善を進めることが必要であることから、SDGsと関連付けながらESDを推進する。

8 ICTを活用した教科等の指導の推進

教科等の指導におけるICT活用の意義とその必要性については、平成29年、30年、31年に改訂された小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の総則に次のように示された。

－ 教科等の指導におけるICT活用の意義とその必要性 －

「情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること」

情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力であり、各教科等の特質を生かし教科等横断的な視点から育成するものである。これを確実に育んでいくためには、各教科等の特質に応じて適切な学習場面で育成を図ることが重要であるとともに、そうして育まれた情報活用能力を発揮させることにより、各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつながっていくことが一層期待されるものである。加えて、人々のあらゆる活動に今後一層浸透していく情報技術を、児童が手段として学習や日常生活に活用できるようにするため、各教科等においてこれらを適切に活用した学習活動の充実を図ることとしているものである。

また、平成29年、30年、31年改訂学習指導要領では、「児童生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童生徒や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。その際、(略)情報手段や教材・教具の活用を図ること。」としており、個に応じた指導の充実を図るに当たりICTを活用することとしている。ICTを活用して個に応じた指導の充実を図ることは、子供たちの基礎学力の育成について課題も指摘される中、基礎的読解力などの基盤的な学力の確実な定着に向けた方策の一つとして有効であると考えられる。

教育の情報化に関する手引（追補版） P 80



教科等の指導でICTを活用する際の活用主体としては、(1) 教師が活用する、(2) 児童生徒が活用するという二つが考えられる。(1) は教師が学習指導の準備や評価のためにICTを活用したり、授業においてICTを活用したりすることなどであり、(2) は児童生徒が授業等でICTを活用することである。

－ ICTを効果的に活用した学習場面の分類例 －

各教科等においてICTを活用する際には、学習過程を踏まえることが重要である。学習過程を踏まえ、ICTを活用した効果的な学習活動としては、例えば、一斉学習(A1)により、児童生徒に学習課題を明確に意識させることで、個別学習(B1, B2, B3)などのその後の学習活動における学習を深めることができる。また、個別学習(B1, B2, B3)を行う際には、その個別学習を踏まえた協働学習(C1, C2)を行うことを意識させておくことで、児童生徒は見通しをもって個別学習に取り組むことができる。

なお、単にICT機器を指導に取り入れれば、情報活用能力が育成されたり、教科等の指導が充実したりするわけではないということに留意する必要がある。各教科等において育成すべき資質・能力を見据えた上で、各教科等の特質やICTを活用する利点などを踏まえて、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要である。

また、後に示す10の分類例は、ICTを活用した典型的な学習場面であるが、ICTを活用した学習活動はこれらに限られるものではないことにも留意する必要がある。

教育の情報化に関する手引（追補版） P 80, 81



「GIGAスクール構想」について

文部科学省による「児童生徒1人1台端末と、学校における高速通信ネットワークを整備し、Society 5.0時代を生きる子どもたちに相応しい、誰1人取り残すことのない公正に個別最適化され、創造性を育む学びを実現する」構想である。

本市においては、GIGAスクールの取組についての基本的な考え方として、「児童生徒に、各教科の学習等において、ICTの活用を通じ、情報機器等の基本技術やプログラミング的思考、情報活用能力や情報モラルなどについて、発達段階を踏まえつつ、系統的・継続的に学習を展開し、児童生徒が学んだことを生かして、これからの社会で活躍できる素地を培うよう取組を進める。」とするとともに、「情報を主体的に捉え、活用し、他者と協働しながら新たな価値を創造できる子ども」を目指す子ども像としている。

学校におけるICTを活用した学習場面

A 一斉学習	B 個別学習		C 協働学習	
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>		<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>	
<p>A1 教師による教材の提示</p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1 個に応じた学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度に応じた学習</p>	<p>B2 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>C1 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p>C2 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p>B3 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B4 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>B5 家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>C3 協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p>C4 学校の壁を越えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

— 一斉学習（A1） —

例えば、教師が教材を提示する際に、大型提示装置や学習者用コンピュータに、画像、音声、動画などを拡大したり書き込みながら提示したりすることにより、学習課題等を効果的に提示及び説明することができる。

また、学習者用コンピュータや大型提示装置を用いて、動画・アニメーション・音声等を含む指導者用デジタル教科書・教材を提示することにより、子供たちの興味・関心の喚起につながるとともに、学習活動を焦点化し、子供たちの学習課題への理解を深めることができる。



— 個別学習 —

①個に応じた学習（B1）

例えば、一人一人の特性や習熟の程度などに応じて個に応じた学習を実施するに当たり、個々の特性に応じてカスタマイズできる学習者用デジタル教科書や、習熟の程度や誤答傾向に応じた学習者向けのドリルソフト等のデジタル教材を用いることにより、各自のペースで理解しながら学習を進めて知識・技能を習得することが挙げられる。また、発音・朗読、書写、運動、演奏などの活動の様子を記録・再生して自己評価に基づく練習を行うことにより、技能を習得したり向上させたりすることが可能となる。この際、デジタルポートフォリオを活用して記録したり、自己評価を行ったりすることも考えられる。

②調査活動（B2）

例えば、インターネットやデジタル教材を用いた情報収集、観察における写真や動画等による記録など、学習課題に関する調査を行うことが挙げられる。

学習者用コンピュータ等を用いて写真・動画等の詳細な観察情報を収集・記録・保存することで、細かな観察情報による新たな気づきにつなげることができる。また、インターネットやデジタル教材等を用いたり、専門家とつないだ遠隔学習を通じて、効率のよい調査活動と確かな情報収集を行うことで、情報を主体的に収集・判断する力を身に付けることができる。この際、インターネット等で得た情報に記号や番号等を付してソートし整理したりすることも考えられる。

③思考を深める学習（B3）

例えば、シミュレーションなどのデジタル教材を用いた学習課題の試行により、考えを深める学習を行うことが挙げられる。試行を容易に繰り返すことにより、学習課題への関心が高まり、理解を深めることができる。また、デジタル教材のシミュレーション機能や動画コンテンツ等を用いることにより、通常では難しい実験・試行を行うことができる。

④表現・制作（B4）

例えば、写真、音声、動画等のマルチメディアを用いて多様な表現を取り入れた資料・作品を制作することが挙げられる。

写真・音声・動画等のマルチメディアを用いて、多様な表現を取り入れることにより、作品の表現技法の向上につなげることが可能となる。また、個別に制作した作品等を自在に保存・共有することにより、制作過程を容易に振り返り、作品を通じた活発な意見交流を行うことが可能となる。

⑤家庭学習（B5）

例えば、学習者用コンピュータを家庭に持ち帰り、動画やデジタル教科書・教材などを用いて授業の予習・復習を行うことにより、各自のペースで継続的に学習に取り組むことが可能となる。また、学習者用コンピュータを使ってインターネットを通じた意見交流に参加することにより、学校内だけでは得ることができない様々な意見に触れることが可能となる。

教育の情報化に関する手引（追補版） P 81～83



— 協働学習 —

①発表や話し合い（C1）

例えば、学習課題に対する自分の考えを、書き込み機能を持つ大型提示装置を用いてグループや学級全体に分かりやすく提示して、発表・話し合いを行うことが挙げられる。学習者用コンピュータや大型提示装置を用いて、個人の考えを整理して伝え合うことにより、思考力や表現力を培ったり、多角的な視点に触れたりすることが可能となる。また、学習者用コンピュータを使ってテキストや動画で表現や考えを記録・共有し、何度も見直ししながら話し合うことにより、新たな表現や考えへの気づきを得ることが可能となる。

②協働での意見整理（C2）

例えば、学習者用コンピュータ等を用いてグループ内で複数の意見・考えを共有し、話し合いを通じて思考を深めながら協働で意見整理を行うことが挙げられる。クラウドサービスを活用するなどして、学習課題に対する互いの進捗状況を把握しながら作業することにより、意見交流が活発になり、学習内容への思考を深めることが可能となる。また、学習者用コン

コンピュータや大型提示装置に、クラウドサービスを活用してグループ内の複数の意見・考えを書き込んだスライドや、書き込みをしたデジタル教科書・教材を映すことなどにより、互いの考えを視覚的に共有することができ、グループ内の議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進めることが可能となる。

③協働制作（C3）

例えば、学習者用コンピュータを活用して、写真・動画等を用いた資料・作品を、グループで分担したり、協働で作業しながら制作したりすることが挙げられる。グループ内で役割分担し、クラウドサービスを活用するなどして、同時並行で作業することにより、他者の進み具合や全体像を意識して作業することが可能となる。また、写真・動画等を用いて作品を構成する際、表現技法を話し合いながら制作することにより、子供たちが豊かな表現力を身に付けることが可能となる。

④学校の壁を越えた学習（C4）

例えば、インターネットを活用し、遠隔地や海外の学校、学校外の専門家等との意見交換や情報発信などを行うことが挙げられる。インターネットを用いて他校の子供たちや地域の人々と交流し、異なる考えや文化にリアルタイムに触れることにより、多様なものの見方を身に付けることが可能となる。また、テレビ会議等により学校外の専門家と交流して、通常では体験できない専門的な内容を聞くことにより、子供たちの学習内容への関心を高めることが可能となる。



旭川市

本市では、ICTの運用・活用の推進に向け、児童生徒1人1台端末の整備や高速通信ネットワークの整備を行っている。また、ICTを活用した学習指導の在り方について実践校を指定するとともに、オンデマンドによる教員向けの研修動画を配信するなど、教員のICT活用指導力の向上を図る取組を行っている。児童生徒が授業以外でAIやプログラミングなどの先端技術に触れ、体験的に学ぶことにも活用できるICTパーク（仮称）の開設を予定している。

9 学校の新しい生活様式を踏まえた指導の推進

確かな学力を子どもたちに育むためには、新型コロナウイルス感染症の影響がある中においても、様々な工夫を凝らして協働的な学びを実現していくことが重要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法の工夫・改善を図ることが大切である。

各教科等の指導に当たっては、国が作成した「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」に示された「具体的な活動場面ごとの感染予防対策について」を踏まえ、学習指導を行う必要がある。

ー 各教科における「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」 ー

- 1 各教科等に共通する活動として「児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」及び「近距離で一斉に大きな声で話す活動」
- 2 理科における「児童生徒同士が近距離で活動する実験や観察」
- 3 音楽における「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」
- 4 図画工作、美術、工芸における「児童生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」
- 5 家庭、技術・家庭における「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」
- 6 体育、保健体育における「児童生徒が密集する活動」や「近距離で組み合ったり接触したりする活動」



本市では、新型コロナウイルス感染症に伴い、登校できない状況が長期化している児童生徒については、その児童生徒の状況に応じた学びの保障を行っている。

- 本校の目指す子ども像は、…
- 本校の児童生徒の状況は、…
- そのため、本校では、
 - 1 確かな学力について、…
 - (1) 学びを深める授業づくり
 - (2) 落ち着いた学級づくり
 - (3) 望ましい学習習慣づくり
 - 2 豊かな心について、…
 - 3 健やかな体について、…
 - 4 小中連携・一貫教育について、…
 - (1) 教育重点目標への位置付けについては、…
 - (2) 教育課程への位置付けについては、…
 - 5 ふるさと旭川の特徴を生かした教育について、…
 - 6 SDGsの取組について、…
 - 7 ICTを活用した学習指導について、…
 - 8 学校の新しい生活様式を踏まえた指導について、…